

メディアと市民社会

- 人と人、人と地域をつなぐローカルメディアによるまちづくり-

社会学部コミュニティデザイン学科

准教授 赤澤 清孝

□「メディアと市民社会」授業内容

インターネット、ソーシャルメディア(SMS)の普及により、マス・メディアが受信者に向けて、一方的に情報発信していた構図は崩れ、誰でも自由に低コストで、情報発信できる世の中になった。個人のブログやツイッターなどの「マイ・メディア」の他、地域または共通の関心事や文化的背景を持つ人々による「コミュニティメディア」、社会運動やNPOなどの情報発信や、社会貢献活動を行う個人による「市民メディア」などの「市民社会メディア」も広がりを見せている。本講義ではこうしたメディアが市民社会にどのような影響を与えうるのかについて、様々な事例をもとに学習する。

1、ローカルメディアとは？

○マスメディア

・テレビ、ラジオ(キー局)、全国紙

○ローカルメディア(伝統的)

・地方テレビ局、地方ラジオ局、地方紙(地元紙)

→全国、中央に対する「地方」。

○ローカルメディア(新しい)

・ウェブ、リトルプレス、コミュニティラジオ(FM)

→個人、地域の小さなコミュニティ発のメディア。

地域に根ざし、地域の魅力を地域の人が発見、発信。地域内外の人のつながり、暮らしの豊かさづくりを志向。

2、今、なぜローカルメディアがブーム？

・マス、グローバルの対する反動、反作用

→アイデンティティ、シビックプライドづくり

・若い世代の地方移住

→観光客向けではない、住民目線での地域の暮らしの情報

・着地型観光の流行

→地元の人たちが知恵を出し、工夫をこらし、その地のことを深く知れる魅力的な観光プログラムとの相乗効果

・小資本でのメディアづくりができる環境

→ICT活用(制作、発信、販売)、少部数印刷、地元限定配布

3、ローカルメディア事例

■京都移住計画 <http://kyoto-iju.com>

<概要>(ウェブサイトより)

わたしたちは、京都で暮らしたい人の想いを形にする任意団体として、2011年から活動を開始。首都圏から京都にUターンやIターンしてきた仲間と共に「居・職・住」という移住する人にとって必要なことをお届けしています。

<運営主体>

京都移住計画(様々な専門性のメンバーで構成する任意団体)



<ここが面白い！>

- ・「移住者の声」、「コラム・住む目線で見ると京都」の他、「仕事探し」、「物件探し」など、移住希望者がアクションをサポートするコンテンツも充実！
- ・京都へ移住した人同士や京都在住の方との交流の場「京都移住茶論」を運営。それぞれの移住物語を語ることでの仲間づくり、中と外のひとが出会う事で新たなアイデアを生み、育てる！

4、ローカルメディアの価値

- ・「本やメディアの売り上げよりも、それが地域にどんな物語を残したか、どのように人と人がつながりあったか」
・・・影山裕樹「ローカルメディアというフロンティアへ」(マガジン航)
- ・「できあがったものそのものよりもつくるプロセスがどれほど豊かであったか」
- ・「地域を本当に豊かにするのは、都市の文化を輸入したりそれに追従することではなく、その地域ならではの物語をその地域に住む人たちが活発に交換し合うことにある」
・・・影山裕樹「ローカルメディアのつくりかた」

■ 学科紹介

社会学部

コミュニティデザイン学科

Department of Community Design

地域を訪れてさまざまな課題に向きあう現場主義の学びを重視。まちづくりや情報発信、社会福祉の援助(ソーシャルワーク)などの実践的な手法を習得しながら、解決の方向を見いだしていきます。「人とあう、聞く、話す、実践する」力が身につく4年間。地方公務員、NPO、福祉、医療分野での活躍をめざします。

こんな人に
学んでほしい

- 少子高齢化、地方の過疎化、経済格差、自然災害などに悩む人々とつながり、問題解決に役立つ方法を考えたい人。



地域政策学コース

住民の声を直接聞き、問題を見つけ出して解決へと導きながらこれからの暮らしをつないでいけるよう、地域の自治体などと協力しながら実践の中で学んでいきます。さらに地域の知られざる魅力や情報を掘り起こし、メディア制作や発信を通じて、地域の入り口作りをサポートする力を身につけます。

社会福祉学コース

高齢者が集まるサロンや、障がい者の就労を支援するカフェや農園など、実際に福祉の現場に足を運び、少子高齢化が進む現在に必要なとされるしくみを考えます。福祉の専門力を身につけて、暮らしの課題に向きあい、地域社会を支える取り組みを学びます。